

なんもく・山村ぐらし通信

村の課題と将来を語る！

7月8日村長との意見交換会第一弾を終えて。

都合2回ほど協議会内でミーティングを重ね、準備をしてきた「村長との意見交換会」。制限時間いっぱいまで村長の考え方や将来に対するビジョン、また協議会メンバーからの質問や意見を交えての大変意義のある時間を持つことができたように思います。

当日は、県庁の職員3名も加わり、役場庁舎2階多目的ホールにおいて開催され、協議会会長の挨拶、村長の挨拶に引き続き、さっそく意見交換の場へ。配布された資料に基づき、まずは「山村ぐらし支援協議会に対する行政の考え方」と題して、今後の協議会活動に対する村長としての基本的な考え方と行政としての関わり方の具体的な提示。また活動に対する期待や行政側からの要望に関して、村長としてのご意見・提案がありました。現状ではまだヨチヨチ歩きの組織体制でしかない協議会です

が、村としてははつきりとした目的と役割を持って、また行政職員の負担軽減も考慮しながら、本来であれば行政が取り組むべき内容の重要課題を村民の協力を

と、協議会が委託された業務をしつかりとしたルールのもと取り組んで行き、常に情報を共有させながら、議論し合い、同じ目的に向かって進むことができればと考えます。過疎化、少子高齢化の村としてなにか注目されている南牧村。地方行政の力だけでは如何ともし難い大きな流れの中

という考え方はなく、減少してゆく中であつてもその年代別人口比率を策を持ってコントロールしてゆけないだろうかという考え方には、その着想と可能性から考えても大変共感する部分があつたように思います。また、協議会としてイメーজしていた空き家の管理・運用・契約へのプロセスについて、おおきな一致点を見出すことができ、方向性を行政側と共有することができたように感じます。他にもさまざまな点で今後協議し、前に進めてゆけそうな課題が多くありますので、両者積極的に取り組み、あるときはチャレンジし、あるときは立ち止まって修正をし、また必要があれば大いに反省をしながらも取り組んでゆきたいものです。近々に行われる意見交換第二弾！楽しみにしています。



ホワイトボードを使い、村の将来と展望を熱く語る村長と、質疑する協議会メンバー。

得ながら進めてゆく業務委託の方針を示していただきました。現在進行中の協議会の体制作りの基本的な方向性と一致することを確認させていただきましたので、協議会の持つべき能力に見合うような体制固めを進めてゆくことができそうです。行政職員が率先して取り組んでいくべき課題

にあつて、南牧村としてどのような将来を目指しどのような姿を思い描いているのか、という大きなテーマに沿って、村長からは大変興味深い将来像を提案していただきました。人口減少を押しさえ込む

日頃より当協議会の活動に関しまして、ご理解とご協力を頂き、お礼申し上げます。さて、先日、多数の会員が参加して行われた「村長との意見交換会」では、村長より南牧村の将来へのビジョンなどを示していただき、また活発に意見が飛び交う有意義な交換会となりました。まだまだ、つくせぬ議題もあり、引き続き次回の交換会をお願い出来たことは大きな意味を持つと思えます。

村長との意見交換会

山村ぐらし支援協議会 会長より



協議会HPQRコード

協議会HP
<http://www.nanmoku.ne.jp/~sanson/>
協議会活動ブログ
<http://nanmokusansonn.blogspot.jp/>

が、村としてははつきりとした目的と役割を持って、また行政職員の負担軽減も考慮しながら、本来であれば行政が取り組むべき内容の重要課題を村民の協力を

と、協議会が委託された業務をしつかりとしたルールのもと取り組んで行き、常に情報を共有させながら、議論し合い、同じ目的に向かって進むことができればと考えます。過疎化、少子高齢化の村としてなにか注目されている南牧村。地方行政の力だけでは如何ともし難い大きな流れの中

という考え方はなく、減少してゆく中であつてもその年代別人口比率を策を持ってコントロールしてゆけないだろうかという考え方には、その着想と可能性から考えても大変共感する部分があつたように思います。また、協議会としてイメージしていた空き家の管理・運用・契約へのプロセスについて、おおきな一致点を見出すことができ、方向性を行政側と共有することができたように感じます。他にもさまざまな点で今後協議し、前に進めてゆけそうな課題が多くありますので、両者積極的に取り組み、あるときはチャレンジし、あるときは立ち止まって修正をし、また必要があれば大いに反省をしながらも取り組んでゆきたいものです。近々に行われる意見交換第二弾！楽しみにしています。

日頃より当協議会の活動に関しまして、ご理解とご協力を頂き、お礼申し上げます。さて、先日、多数の会員が参加して行われた「村長との意見交換会」では、村長より南牧村の将来へのビジョンなどを示していただき、また活発に意見が飛び交う有意義な交換会となりました。まだまだ、つくせぬ議題もあり、引き続き次回の交換会をお願い出来たことは大きな意味を持つと思えます。

くもつたないことだと思ふ。どうしてそういったものが今の村に反映されていなのか考える。吸い上げてくれる機会や場所がないからである。このような議論はたぶん村内にもたくさんあつて、でもそれらはその場限りで終わってしまった。行政が主導する事業は好きではないけれど、このような機会を行政が主導して設けることも必要なことだと考える。村の行く末を憂う人々や未来の南牧を描いている人は大勢いるのだから。

我・想・明・村

とある通りがかりの村人(むらびと)の寄稿
(前回はライオン丸だったと主張している)

そのような仕事をしていく訳ではないが、頻りに飲み会の席に出かけることがある。その席上必ずと言っていいほど語られるのが、南牧村の将来についての話題である。これはある特定の酒席だけではなく場所やメンバーなどが変わったとしても、ほかに話はないのかと言いたくなるくらいほぼ毎回語られる話題である。内容はその時々で違っているが、例えば「村はもつと人が増えるような施策をしたほうが良い。」とか「観光に力を入れたほうが良い。」とか「役場の職員はなつてない。」など様々な意見が出る。いつの間にか小さく寄ったグループがそちこちにでき、皆口角沫を飛ばし、白熱した議論を戦わせる。どれもこれも結局は村の将来を思つてのこと、本気でこの村をどうにかしたいんだなあ、という気持ちがひしひしと伝わってくる。夢物語的なものもあれば、今すぐにも実行に移せそうなものまであつて、実現できれば活性化につながると思えるものもある。しかし実施されたことはなく、ごく

このような機会を行政が主導して設けることも必要なことだと考える。村の行く末を憂う人々や未来の南牧を描いている人は大勢いるのだから。

くもつたないことだと思ふ。どうしてそういったものが今の村に反映されていなのか考える。吸い上げてくれる機会や場所がないからである。このような議論はたぶん村内にもたくさんあつて、でもそれらはその場限りで終わってしまった。行政が主導する事業は好きではないけれど、このような機会を行政が主導して設けることも必要なことだと考える。村の行く末を憂う人々や未来の南牧を描いている人は大勢いるのだから。

暮らし体験民利用状況

- 4/8~5/31 (利用済み)
- 6/20~7/19 (利用済み)
- 【予約状況】
- 8/5~8/12 (予定)
- 8/19~9/15 (予定)
- 9/19~10/31 (予定)
- 11/6~12/6 (予定)

※予約に関しては延長・短縮もありますので詳しくは事務局まで。

26年度4~6月空家物件件数

電話による問合せ計18件	
4月	3件
5月	9件
6月	6件
メール・手紙・FAXによる問合せ計5件	
4月	1件
5月	2件
6月	2件
来村空家物件訪問計7件	
4月	1件
5月	2件
6月	4件

会長 金田鎮之

＜協議会からお願い＞

現在、村内に移住を検討している来村者の方に紹介できる空家情報が不足しています。空家所有者の方や情報をお持ちの方からのご理解とご協力をお待ちしております。

空家の有効利用にご理解とご協力を！

「ふるり」なんもく村 in 民俗資料館



民俗資料館展示品

平成26年6月に「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産に登録され、富岡市・下仁田町・藤岡市・伊勢崎市は賑わいをみせています。養蚕については南牧村も江戸時代より主要な産業であったことをみなさんはご存じでしょうか？

南牧村の養蚕農家は、大正9年に旧尾沢村231戸、旧月形村271戸、旧磐戸村410戸。昭和25年に尾沢村202戸、月形村228戸、磐戸村305戸のぼっていたそうです。養蚕は明治末く大正初め

は自分の家に置いていたようですが、温度変化があるのであつた荒船風穴で養蚕を貯蔵。また、星尾の大上には氷室があつて、これを利用し春蚕は7月頃採ったものをこの風穴で保存。6月下旬く7月上旬、蚕の忙しい時期には長野県や山梨県から男女の手伝いが来ていたそう、大上では昭和10年代まで続いていた。この手伝人のための宿が砥沢に2軒、勸能に1軒あり、蚕祝としては大休みに赤飯を蒸かし、餅をつき祝ったとのこと。

昭和37年にピークを迎えた養蚕、昭和50年代後半には外国から安い絹製品が輸入され急速に減少し、現在、南牧村で養蚕を行っている農家は見られなくなりました。南牧村の家屋の2階などは、かつて養蚕や蒔蒔の作業場として使われていたため、家の間取りはかなり大きく、その面影は村内のあちらこちらで見られます。その中で星尾・仲庭集落の建物は昔ながらの面影が今なお残る貴重な建造物群と言われています。

このように南牧村でも養蚕は栄え、南牧村の経済を支えた時代がありました。南牧村の養蚕の歴史や道具を知るには、南牧村民俗資料館にいろいろな道具が展示してありますので、機会がありましたら是非一度と言わず二度三度と訪れて欲しいものです。その地域の経済を調べることによる、家の造りや生活の知恵が見えてくるのではないかと思います。富岡製糸場は世界遺産となりましたが、南牧村の養蚕の歴史を調べてから、世界遺産を見に行く、また違った視点から見る事ができるのではないのでしょうか。地域を知るには、まずは「ふるり」な「なんもく村」がいいのかな！次は何処をぶらっとしようかな・・・。

くフットサトル特派員く

はじめまして！村人(むらびと)紹介

移住歴1年半・勸能地区在住 清田壽邦さん

【南牧村の良いところ】く空気く 東京に比べ空気がうまいと感じる。都会では排気ガス等で汚い空気を吸っていたが南牧では自然の中での新鮮なおいしい空気が吸える。時々東京に行くが帰省時高崎駅に着くと少々空気がきれいになっている。上信電鉄で下仁田に着くと高崎より新鮮な空気がなっている。南牧バスに乗り南牧へ、特に蟬の渓谷を過ぎると一層かわるのがわかる。く水く 南牧の水は冷たくておいしい。都会では消毒のため薬品臭くそのままでは飲めない時もある。ここ南牧では臭みもなくそのまま飲んでもおいしい。例えばお釜でご飯を炊き保温状態でおくと都会では1日で臭くなってしまうが南牧では数日たっても臭くならず食べられる。く人く 周りのじつちゃん・ばつちゃんが良い人ばかり。みんなやさしくて気さくに話しかけられる。特に畑のことは素人なのでいろいろ聞くが親切に教えてもらえる。また、いつの間にか玄関に野菜が置いてもらえる。初め

は誰かの忘れものかと思っていたら、おすそ分けな感じでもらえるのは都会ではなかなかないこと。

【南牧村の不便なところ】くコンビニがない！く 都会では歩いて数分であったので便利だったが南牧村では一番近くて下仁田。自動車で約40分かかりこれではコンビニではない。く病院く 南牧村には分院があるが、総合病院としては下仁田もしくは富岡まで行かなければ無。ただそのため都会で住んでいた時より病気を怪我をしないよう気を付けるようになった。く南牧村で驚いたことく 平成24年12月に南牧村勸能に住んだが、冬の間は県道なのに車は1日数台しか通らず、人を見ることもなく本当にここには住んでいる人が居るか不安になった。春になり少しずつ交流を持てるようになり1年半、すくすくだけ南牧村勸能の村民になれたように感じる。鎌が2つに分かれていて先がとがっていたこと。平鍬で畑を耕すものだと思っていたら、ここでは「ふたつご」という鍬で耕すと聞き実際に使用してみても土を起すのに便利だった。

【これからの生活】自給自足を目指して頑張ります！

なんちゅう売店のお知らせ

くひとぼし会場一号店く

夏は各地域で夏まつりが行われます。ここ南牧村でも、大日向地区の伝統行事「火とぼし」と南牧村商工会青年部主催の「ふるさと祭り」が開催されます。

南牧の子どもたちは、この夏祭りにも参加して楽しんでいきます。「火とぼし」は8月14・15日の2日間、大日向地区で地域の方を中心に行われ、夏の夜空に幻想的な炎の輪を浮かび上げます。

小学生は、薫に火をつけ橋の下で廻し、中学生は売店(なんちゅう売店8/15のみ出店)で呼び声高らかにお祭りを盛り上げています。「ふるさと祭り」は14日に商工会青年部が主催と



今年の「なんちゅう売店」の様子

なんちゅう売店のお知らせ

く磐戸小学校舎とプールく



この写真は昭和50年頃の磐戸小学校校舎です。昭和50年7月に磐戸小中学校プールが作られ、その後、昭和54年に現在の南牧小学校校舎が建てられました。当時の小学生は、現存に泳いでみてはいかがでしょうか。詳しい情報は南牧村教育委員会までどうぞ。注意：後方宙返り飛び込みは禁止です！

に伴い今年改修され、とっても綺麗になりました。村内唯一のプールはこの夏休み中一般開放もしています。昔を思い出し、今度は子どもさんやお孫さんと一緒に泳いでみてはいかがでしょうか。詳しい情報は南牧村教育委員会までどうぞ。注意：後方宙返り飛び込みは禁止です！